



好きな遊びが幼児の学びに欠かせないわけ

園長 川嶋 佳恵

入園から1ヶ月が過ぎようとしています。登園時に保護者の方から離れ難かったうさぎ組の子どもたちも、テラス門の所で園長の私や職員と挨拶をすると、保育室の前で待っている担任の所まで小走りに駆けよっていき様子が見られるようになりました。「今日も、〇〇して遊ぼう。」「今日は、どんな楽しいことがあるのかな。」「今日は、〇〇ちゃんと一緒に遊ぼう。」等子供園での生活への期待や喜びが大きくなったということですね。このような気持ちが支えになり、好きな遊びだけでなくみんなでする活動にも落ち着いて取り組むことができるようになり、それぞれの年齢に応じた経験がしっかりと積み重なっていくことにつながっています。まだ、登園時や保育中におうちが恋しくなるお子様もいらっしゃいますが、きっとすぐに慣れて、楽しい園生活が送れるようになりますよ。

さて、高円寺北子供園の教育の基本は、遊びです。私たちは、子どもたちが園生活の中で主体的に取り組む遊びをととても大切にしています。それは何故でしょう。それは、幼児が主体的に取り組む遊びの中で、自分自身でつかみ取った学びが、生涯消えることなく自分の力として、確実に積みあがっていくからです。

保護者会で令和7年度の子供園経営計画についてお話した時にお伝えしましたが、令和7年度、8年度は高円寺北子供園が杉並区教育課題研究指定園として研究に取り組みます。幼児が遊ぶ中で『わくわく』が生まれ、つながり、広がる、つまり連鎖することで遊びがより楽しく充実し、遊びが充実することでつかみ取る学びが多く、幼児期に育ってほしい資質・能力が育つということを実践事例を通して検証する研究です。私たち大人でも、心が「わくわく」しながら臨むことは、どのようなことであっても楽しみながら取り組めますよね。そのような心を大切にしたい好きな遊び(幼児が主体的に取り組む遊び)は、奥が深く、学びが無限に詰まっています。

ここでは、幼児の学びに大きく関係する思考力について、幼児期の特性を踏まえながらお伝えし、なぜ好きな遊びが幼児の学びに欠かせないのかをお伝えします。

幼児の思考には、主に直観的思考と幼児なりの論理的思考があります。幼児は、どちらかというと直観的に物事を考える傾向があると思われています。例えば、遊びの中での「いいこと、考えた。」のようなひらめきや、自己中心的な見方や考え方は、直観的思考力です。しかし、遊びに向かう幼児の様子をじっくりと観察したり、幼児の言葉に耳を傾けて聞いたりしてみると、直観的思考力だけではなく、幼児なりに過去の経験や知っている知識を結び付けながら論理的に物事を考え、遊びを進めていることがよく分かります。有名なある心理学者は、直観的思考力を価値のあるものにするためには、直観的に考えたことを論理的思考力で確かめる力が必要であることを示しています。これは、幼児も直観的思考力と幼児なりの論理的思考力を使いながら遊びや生活に取り組むことで、学びが深まるということだと考えます。

また、幼児は、体を動かして遊んだり、友達と笑い合ったり、喧嘩をしたりする等の直接的体験の中で生まれた、知的好奇心によって思考が活発になり、試行錯誤を繰り返すことで、思考活動が展開されると言われています。はじめは、何気なく行い、失敗を繰り返す中で、偶然に成功したことで、「あれ、どのようにしたらこうなったのだろうか」ということを考えるようになり、思考を巡らせることで、学びにつながっていくのです。

さらに、幼児期は、自分の興味・関心に応じて思考を働かせる時期なので、感性の発達と知性の発達は分けることができないのです。つまり、情操教育と思考の教育を切り離して実施すべきではないということです。例えば、幼児期に、思考力を身に付けさせたいからと言って、思考力に特化したドリルなどを訓練的にさせることは、適切ではありません。なぜなら、幼児は、興味・関心に応じて思考を働かせ、直接的な体験の中で知的好奇心によって思考が活発になるからです。

そもそも幼児は、与えられた知識を受け入れるだけの受け身的な存在ではなく、積極的に自ら知識を求めようとする能動的な存在なのです。

以上のことから、幼児が学びを確実なものにする活動は、直接的体験の中で、自分の興味・関心や知的好奇心に基づき、「わくわく」と心を動かしながら取り組む主体的な活動でなければなりません。このような条件を満たす活動が、好きな遊び(主体的に取り組む遊び)です。だから、好きな遊びが幼児の学びには欠かせないのです。

高円寺北子供園は、園庭やグラウンド、園舎周りの遊び場が広く、たくさんの種類の草花や実りの多い木々、様々な虫など、都会での生活とは思えないほどの豊かな自然環境の中で、子どもたちは、主体的に四季折々の草花や虫たちと戯れたり、友達と一緒に思い切り体を動かしたりして直接的体験を楽しんでいます。また、保育室内には、年齢や発達に応じて工夫された遊具や教材(基本的には、既成のおもちゃではなく、幼児が少し手を加えれば、なんにでも見たてられるような素材や材料、遊具や道具等)が豊富に準備しており、子どもたち一人ひとりが興味・関心に基づいた遊びに自ら関わり、思い切り笑ったり、自分の思いを表現したり、友達と関わり合ったりしながらたくさんの学びをつかみ取っていきます。

私たち高円寺北子供園の職員は、「わくわく」と心が動く遊びを中心とした楽しくてかけがえのない時間を大切にし、子どもたち一人ひとりが、「面白かった」「楽しかった」「また、明日もやりたい」と思いながら、たくさんの学びをつかみ取っていけるよう質の高い教育・保育に尽力してまいります。



《今月の指導》

★3歳児 うさぎ組

おうちの人と離れる際に、まだ少し寂しい気持ちもあるけれど、担任をはじめ周りの先生が側にいることで安心して遊んでいます。塗り絵やままごと、砂遊びなど自分の好きな遊びをじっくりと取り組んだり、保育者と一緒にお面をつけ、生き物になりきって遊んだりしながら楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の好きな遊びを見つけて繰り返し楽しむ。
- 保育者や周りの幼児と一緒につくったり、体を動かしたりする楽しさを感じる。
- 登園後の所持品の始末や降園準備など自分でできることをやってみようとする。

今月はシール、のりなど初めての素材と出会い、つくることが楽しんだり、保育者と一緒に体を動かしたりしながら子供園で遊ぶことがより楽しくなっていくように援助していきます。また、子供園での生活の仕方が分かり、自分の身の回りのことを自分でやってみようと思えるように援助していきます。

★4歳児 くま組

くま組での生活に少しずつ慣れ、担任にも親しみを感じながら関わる様子が見られるようになってきました。子どもたちの表情も和らぎ、笑顔が増えてきました。「先生〇〇やりたい!」「〇〇しようよ!」と自分のやりたい遊びを見つけてじっくり取り組んだり、友達と一緒に関わったり遊んだりすることを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 興味を持ったことに自分から関わり、自分のやりたい遊びにじっくり取り組む。
- 先生や友達と関わったり、一緒に遊んだりすることを楽しむ。
- 戸外で身近な自然に関わったり、思い切り体を動かしたりする楽しさを感じる。
- 身の回りの始末や遊具の片付けなど自分でできることは自分でしようとする。

くま組になって使えるようになった遊具や製作コーナーの素材や材料を使う中で、遊び方や使い方を知り、遊びに取り入れて楽しんだりできるようにしていきます。また、先生や友達と一緒に初夏の自然に触れながら、心地よい気候の日には、思い切り体を動かして楽しめるようにしていきます。

★5歳児 ぞう組

年長組になった喜びを感じながら、友達と一緒にこいのぼりづくりや砂場での山づくりをしたり、学級のみんなで鬼遊びをしたりすることを楽しんでいます。ぞう組になってから取り組んでいる名札のつけ外しも少しずつ自分でできるようになってきています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 遊びのめあてをもち、友達とやりとりをしながら遊びを進める楽しさを味わう
- 身近な自然を取り入れながら、戸外で伸び伸びと体を動かすことを楽しむ
- 園生活の流れに見通しをもち、身の回りのことに自分から取り組む

大型積み木などの新しい遊具を取り入れ、友達と力を合わせて場をつくったり、友達とやりとりをしたりしながら遊びや活動を進めていくことができるようにします。遠足に向けての活動では、友達と相談しながら共通の体験が楽しめるようにしていきます。